

# 知事記者会見の概要

日 時：平成30年 9月20日(木) 16:01～16:15

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：13名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 北海道胆振（いぶり）東部地震における本県の支援について

### 代表質問

- (1) 液状化ハザードマップの作成について

### フリー質問

- (1) 自民党総裁選の結果について

<幹事社：読売・日経・YTS>

## ☆報告事項

### 知事

それでは、さっそく始めます。

9月15日から19日までの5日間、3泊5日でありますけれども、米国ハワイ州を訪問しまして、ハワイ山形県人会設立50周年記念祝賀会への参加と、「つや姫」をはじめとする県産品のトップセールスを実施してまいりました。

ハワイ山形県人会設立50周年記念祝賀会では、長きにわたって本県との友好親善の発展に大きく貢献されてきた方々に感謝状を贈呈するなど、交流を深めてまいりました。

また、観光関係者や弁護士など、現地で発信力のある方4名を新たに「やまがた特命観光・つや姫大使」に委嘱しまして、今後、様々な場面で幅広く山形県のPRを行っていただくこととしました。

ホノルル市のワイキキ・ショッピング・プラザ内のワイキキ横丁におきまして、多くの来場者の皆さんに対し、「つや姫」や県産加工食品の試食販売、県産日本酒の販売、工芸品等の展示、また本県への観光誘客に向けたPRなどのトップセールスを実施いたしました。用意した100個以上の「つや姫」のおにぎりがあっという間になくなりまして、県産日本酒や工芸品にも高い関心が寄せられるなどたいへん盛況でありました。

さらに、県の酒造組合の協力による日本酒セミナーを開催するとともに、米国本土にも店舗を展開している現地スーパーマーケットを訪問し、県産食品の取扱い拡大を要請してまいりました。

今回の訪問では、2年前から取り組んでいる「つや姫」や県産日本酒、漬物などの加工品、芋煮といった食文化をPRすることで、「山形」の認知度が着実に向上していることを実感するとともに、ハワイ山形県人会や輸入バイヤーをはじめ現地関係者とのつながりをさらに強めることができました。

今後は、こうした人脈などを活かして、ハワイを足がかりにし、米国本土への「つや姫」をはじめとする県産品の本格的な販路開拓に取り組み、さらなる輸出拡大に結び付けてまいりたいと考えております。

それから、恒例となりました、イベントや祭りのご紹介です。

9月29日から10月8日まで、上山市で「第48回かみのやま温泉全国かかし祭」が開催されます。今年は「平成のおもいで」をテーマに、手作りのかかしが会場いっぱいに表示されます。ほかにも、上山市の物産品が勢ぞろいするフードコートやステージイベントなどを楽しむことができます。

続きまして、10月5日から11月11日まで、南陽市で「第106回南陽の菊まつり」が開催されます。開催期間中には、菊花品評会や物産フェアのほか、熊野大社での宮内中学校吹奏楽部による演奏会など、多彩なイベントが開催されます。

さらに、10月6日には、山形市中心部で「まるごと山形 祭りだワッショイ」が開催されます。「山形花笠まつり」をはじめ、「むらやま徳内まつり」や「ながい黒獅子まつり」

など、県内のお祭りを一堂に楽しむことができます。ほかにも、仙山連携特別出演としまして、「仙台すずめ踊り」と「伊達武将隊」もお祭りを盛り上げてくれます。

同じく、10月6日ですけれども、山形市の豊烈神社で「豊烈神社例大祭」が開催されます。御神輿渡御（おみこしとぎょ）のほか、古式ゆかしい衣装を身につけて、馬に乗って、紅白にわかれて競う「古式打毬（こしきだきゅう）」が奉納されます。

県民の皆様も、ぜひ、お出かけいただければと思います。

では、私から、発表1点だけございます。

北海道への本県の支援についてです。

北海道胆振（いぶり）東部地震の発生から2週間が経ちました。

県では、発災直後から、消防防災ヘリ「もがみ」が、緊急消防援助隊として、6日は安平町（あびらちょう）、7日は厚真町（あつまちょう）において救助活動等を実施いたしました。

県警察では、「広域緊急援助隊」が、厚真町で7日から9日まで救助活動を実施したほか、警察ヘリ「がっさん」は、7日から10日まで厚真町周辺において情報収集活動などを実施、加えて、11日から20日まで「特別生活安全部隊」を派遣し、厚真町、安平町の避難所の巡回活動を実施いたしました。

本県からDMATも7チーム行っておりますけれども、県立中央病院、県立新庄病院、日本海総合病院、公立置賜総合病院、山形市立病院済生館、山形済生病院、鶴岡市立荘内病院で、この7チームです。この7チームは、むかわ町などで9日まで活動したほか、厚生労働省DMAT事務局からの派遣要請がありまして、7日から10日まで県立中央病院の副薬局長が北海道調整本部で支援活動を実施いたしました。

加えまして、北海道からの要請に基づき、花王株式会社と連携して、紙おむつ約2万4千枚の物資支援を実施してきたところです。

現在は、被害の大きかった3つの町、厚真町、安平町、むかわ町のうち厚真町に対しては、本県と青森県と福島県が中心となって支援を行っておりまして、山形県からは現在、職員延べ30人を派遣し、避難所の運営支援を22日まで行っております。

今後の支援といたしましては、本日から10月9日までの20日間、避難所での健康相談など被災者支援のため、県内市町村と連携して、各班2名の4班編成、延べ8名で保健師を派遣いたします。

また、被災地の復旧に向けて罹災証明書を早期発行する必要がありますので、罹災証明のもとになる被害認定調査、家屋の調査などを支援するため、県内市町村と連携し、県職員及び県内市町村職員で派遣チームを編成し、9月25日から10月4日まで、各班10名の2班の編成、延べ20名で職員を派遣することといたしました。

県としましては、引き続き、被災地の復旧に向けて、できる限りの支援に取り組んでまいりたいと考えているところであります。

以上です。

☆ 代表質問

記者

山形テレビの吉田と申します。よろしく申し上げます。

この北海道地震ですが、札幌市などでは液状化現象が起きて、道路に大きな被害が出ております。県内ではどのような現状なのか、実際に起きやすい地域はあるのでしょうか。

また、液状化に特化したハザードマップの現状及び今後県が県内各自治体に液状化ハザードマップを作るよう呼びかけるのか、といった全体的な県の対応をお伺いしたいと思います。

知事

はい、わかりました。

東日本大震災や先の北海道胆振東部地震等においても、液状化現象が発生して、大きな被害が発生しております。本県におきましても、大規模地震が発生した場合には、土地の液状化が発生する可能性の高い地域が広く分布しております。

県では、平成8年度から平成17年度にかけて数次にわたって行った「地震被害想定調査」の中で、土地の液状化についても調査を実施しております。調査では、県内の主要4断層帯において大規模地震が発生した場合、いずれも広い範囲で液状化現象が発生する可能性が高いとの結果がでております。液状化が発生しやすい場所としましては、平野部、大きな河川沿いの地域、埋立地や旧河道などであり、県では、主要4つの断層帯ごとに液状化の危険度を示した分布図を県のホームページに掲載しております。

避難場所などを記載した液状化ハザードマップにつきましては、県内の市町村で作成しているのは、現在、鶴岡市のみという状況です。

県としましては、地震に伴うリスクを把握し、住民が安全に避難できるように、各市町村における液状化ハザードマップ作成の取組みについて、働きかけてまいります。

以上でございます。

☆ フリー質問

記者

山形新聞の小田と申します。よろしく申し上げます。

先ほど午後2時過ぎに自民党の総裁選で安倍さんが3選を決めました。それについて知事のお考えがありましたら一言もらえればと思うのですけれど。

知事

はい。わかりました。

本日、自民党総裁選の開票結果が発表され、安倍氏が当選されました。

まず、当選された安倍氏にお祝いを申し上げます。

安倍氏が再選されたということでもありますので、引き続き、安倍氏が内閣総理大臣に就任されると思っておりますけれども、内閣総理大臣に期待することといたしましては、我が国の抱える景気・雇用対策をはじめ少子化・高齢化や社会保障の問題など多くの課題に対して、総理の力強いリーダーシップのもと、国民の負託に応え、スピード感を持って全力で対処していただきたいと思っております。

特に、私は地方自治体の長でありますし、知事の立場としましては、地方の人口減少が止まらない現状であります。地方創生の推進、地域の実情を踏まえた経済対策に取り組んでいただきたいと思っております。そして、近年相次ぐ自然災害からの復旧・復興や社会インフラの整備推進などにも取り組んでいただきたいと考えております。

地方の声に真摯に耳を傾けていただきたいと思っておりますし、人も経済も、地方に分散して、日本全体が活性化するように、力を入れて取り組んでいただきたいというふうに思っております。